

令和4年度岐阜県生活習慣病検診等管理指導審議会
大腸がん部会 概要

- 1 日 時：令和5年1月18日（水） 13：30～15：30
 2 場 所：議会棟
 3 出席者：

	氏名	所属	
委員	荒木 寛司	松波総合病院 副院長	
	足立 政治	揖斐厚生病院 副院長	
	三輪 佳行	岐阜県医師会 常務理事	
	窪田 裕子	岐阜市民病院 中央検査部	
	西尾 悦子	市町村保健活動推進協議会保健師部会（多治見市）	欠席
オブザーバー	伊藤 陽一郎	関保健所 所長	
事務局	井上 玲子	保健医療課長兼健康推進室長	
	田中 和美	主幹兼がん・受動喫煙対策係長	
	江坂 ゆめか	技師	
	成瀬 萌果	主事	

4 内 容：

報告：1 令和3年度岐阜県生活習慣病検診等管理指導審議会大腸がん部会議事

2 岐阜県のがんの現状等

- ・令和3年度の大腸がんの受診率は令和2年度と比較して少し回復したものの、コロナ前の受診率には及んでいない。

3 がんの予防（大腸がん検診）の推進について

（1）正しいがん検診の実施

- ・対策型検診において、死亡率減少効果が証明されていない、対象年齢以下への検診は国の指針外であり問題である。
- ・精密検査の第一選択である内視鏡検査を行うべきところ、便潜血検査の再検査を実施している医療機関があることから、医療機関への周知と県民への周知をしていく必要がある。

（2）がん検診マネジメント

- ・市町村のチェックリスト実施率は年々改善されてきているが、経年的に改善さ

れていない項目について市町村へ技術的支援を実施していく。

- ・市町村の精検結果回収方法について、がん検診の指針を遵守し、かつ、回収率を最大化できる方法を県内市町村の好事例から考察し、体制整備を進める。
- ・検診機関の要精検率は許容値を超えている機関が約半数あり、受診者への不利益が懸念される。要精検率が高いことは、目視判定や、低いカットオフ値を使用することによる影響が考えられる。

⇒上記協議結果について、市町村及び検診機関に周知を行い、精度向上に向けた取組みを促していく。